

# 児童雑誌『北の子供』解題（一）と細目

## 目次

谷 暎子

### 一、解題（一）

はじめに

一、刊行の状況

二、編集人

三、刊行の意図

四、内容構成と執筆者

五、新日本文化協会と児童文化活動

むすび

### 二、細目

## 一・ 解題 (一)

### はじめに

『北の子供』は一九四六年四月、北海道の子どものために創刊された児童文芸雑誌である。日本の児童文学史では、戦後初期を雑誌期とも呼ぶ。『北の子供』は、戦後児童雑誌のトップをきって出版された『赤とんぼ』（実業の日本社）、『子供ひろ場』（新世界社）と同月の創刊で、『銀河』（新潮社）の創刊（十月）より早かった。そして『赤とんぼ』が一九四八年十月、『銀河』が一九四九年八月に廃刊された後も、一九五〇年一月まで続き北海道の子どもたちに親しまれた。

北海道の戦後児童文学・文化史は、『北の子供』ぬきに語れないといわれる。それほど大きな役割を果たしたにもかかわらず、『北の子供』の全体像は明らかにされなのまま、今日に至っている。その理由の第一は、北海道の児童文学・文化史の研究が遅れていること。第二に研究の遅れとも関わるが、研究に必要な原資料―児童雑誌、絵本等の収集・保存が極めて悪いことである。日本では長いこと児童雑誌、絵本等は消耗品として扱われてきたため、公共図書館にさえ収集・保存されていないというのが現状である。『北の子供』も例外ではない。閲覧のために道立図書館、遠く国立国会図書館、大阪国際児童文学館まで出向かなければならなかった。それでもなお全冊をみることはできないのである。

鳥越信は、「児童文学研究に限らず、日本の近代文学を研究するさい、「雑誌」という存在を抜きにしてことを進めることは不可能に近い。」（注1）と述べている。理由として日本の場合、雑誌が作家の作品発表の場となってきた事実の重要性を指摘している。そうした意味で、「児童雑誌を探索・調査することは、それ自

体が一つの研究」であり、「明治以来今日に至るまでの雑誌の整備は、児童文学研究にとって最も基本的な課題であり、急務である」（注2）と。『北の子供』が出版されたのは四十五年前なのに、地元札幌の図書館にさえ所蔵されていない現実に驚き、ことの重大さを再認識させられた。

本稿では、『北の子供』の細目を作成して基礎資料を整え、その概要を明らかにすることを意図した。今後、『北の子供』の全体像を解明するための第一歩として位置づけたい。

## 一、刊行の状況

『北の子供』の創刊は一九四六年四月三十日、終刊は一九五〇年一月。A5版の月刊・児童文芸雑誌である。

**発行所** 創刊号の奥付には新日本文化協会とあり、第一巻第二号から第五巻第一号（終号）の奥付には、財団法人・新日本文化協会と記載されている。法務局に保存されていた登記簿謄本では、財団設立許可日は「昭和貳拾老年六月參拾日」となっている。第一巻第二号は五月三十一日の発行なので、許可を見越して使用したのであろう。

**発行人** 創刊号と第一巻第二号が佐藤信一、第一巻第三号から終号までは須田多四郎。佐藤については、『新日本文化協会の理事長で、設立資金を出した事業家らしい』という以外わからない。須田は、国鉄の帖票類を専門に印刷していた印刷所の経営者であった。『北の子供』の印刷も、第一巻第四号から終号まで須田印刷所で行なわれたことになっている。

『北の子供』は、創刊間もない六月から十月まで発行されていない。詳しくは後述するが、「遅刊のお詫び」（第一巻第四号）には、「印刷会社の積極的御援助」もあって発行の見通しがついたとある。印刷会社というのは、おそらく須田印刷所のことであろう。須田がどのようにして『北の子供』に関わるようになったか、今

その詳細を知ることにはできない。しかし、戦後間もない頃、しかも危機的な状況にあった出版社にとって、印刷所の経営者を理事長に迎えたことは、大変に有利な条件となったに違いない。

**発行状況** 表1は、『北の子供』の発行状況をまとめたものである。毎月順調に発行されるようになったのは、第二巻第四号で、それまでは遅刊が目立ち、遅れをとり戻す手段としての合併号が続く。

第一巻第三号の遅れが著しい。六・七月号なのに十一月十日の発行で、五カ月遅れである。八・九月号は十二月一日、十月号を休刊して、十一・十二月号は十二月三十一日に発行。したがって、第一巻は五冊しか発行されていない。

月刊誌の五カ月遅れという、考えられないことが起こったわけだが、「遅刊のお詫び」（第一巻第四号）には、「事情止むを得ない内部的な原因によるもの」としか書かれていない。

しかし、ちょうどこの時期に理事長の交替が行なわれていること。編集に携わっていた和田義雄が「理事者と協会運営全般に亘る会議に明け暮れる。」（注3）とのべていること。これらを考えあわせると、経営・運営をめぐって危機的な状況に陥り、発行の目的がつかなくなかったと推測できよう。「北の子供」に直接関係ある先生、ならびに印刷会社の積極的な御援助と、内部の大革新に依って」（「遅刊のお詫び」）継続の見通しを得、五カ月後に第三号発行となった。創刊から終刊まで全三十八冊である。

**発行部数** 『北の子供』には発行部数にふれた文はみあたらない。『北海道文学大事典』の『北の子供』の項には、「一万五千部」とある。執筆者・渡辺ひろしによると、この数字は和田義雄から聞いたものだという。和田自身が発行部数について語った記録が二つある。一つは、一九七〇年の北海道芸術新賞受賞記念講演「子どものために一冊の雑誌を」で、「一万三千部」。もう一つは、北海道児童文学展終了後に製作されたビデオ

作品『北海道の児童文学』（北海道文学館監修、一九七八年）で、「一万七千部」。これ以外に、発行部数についての資料はみつからないので確実なことはわからないが、一万五千前後といったところか。しかし、それも最盛時のことであって、発行部数には変動があったようだ。特に一九四九年になってからは、かなりの減部

があつたと考えられる。

その根拠の一つは、道立図書館で発行部数の記入されている『北の子供』を発見したこと。四冊とも一九四九年の発行で、表紙の左側にペン、または毛筆で次のように記されている。「発行部数八千二百部」(第四巻第二号)。「発行部数六千部」(第四巻第四号と第五号)。

「発行部数八千部」(第四巻第八号)また、第四号、第五号、第八号の表紙右上には「納本」、第二号、第五号の裏表紙には「日本出版協会北海道支部」と押印されてある。発行部数を誰が、どこで記入したかを確定するのは難しい。だが、道立図書館の受入れは一九五二年であり、図書館で表紙に部数を記入する習慣はないという。だとすると、新日本文化協会が、日本出版協会北海道支部に納本する際に記入したか、あるいは、納本された日本出版協会北海道支部が記入したか、どちらかであろう。ちなみに新日本文化協会は、日本出版協会北海道支部の会員であつた。

二つには、新日本文化協会の専務理事であつた武藤鉄壽が、当時、表紙絵を担当していた梁川剛一にあてた手紙に次のように書いてのこと。

北の子供は農村方面の不況を反映して益々凋落の一途にあります。

(中略)これから北の子供の拡張に馬力をかける予定ですが、

昔の部数まで、とても困難と存じます。(傍点筆者)

この手紙は一九四九年七月五日付のもので、部数の記入された雑誌の

表1 『北の子供』発行状況

年	巻数	号数	冊数	備考
1946	第1巻	第1号～第5号	5冊	合併号(6・7月)11月10日発行 (8・9月)12月1日発行 (11・12月)12月31日発行
1947	第2巻	第1号～第9号	9冊	合併号(1・2月)(3・4月)(5・6月)
1948	第3巻	第1号～第12号	12冊	
1949	第4巻	第1号～第11号	11冊	合併号(8・9月)
1950	第5巻	第1号	1冊	

発行時期と符合する。

三つには、最盛時に四万部、五万部出版されたという東京の『赤とんぼ』、『子供の広場』、『銀河』も終刊時は八千部、一万部と激減していることである。

定価 創刊号（六十四頁）は二円、終号（六十四頁）で四十円、ほぼ四年間で定価は二十倍。しばしば値上げされている。第三巻第十号には、値上げの理由として①印刷工賃の値上がり。②用紙の二倍値上がり。③輸送運賃の四倍値上がり。の三点を挙げている。超大型インフレ時代を反映して『北の子供』の値上げ幅も次第に大きくなっていく。

読者層 『北の子供』掲載文芸作品、評論等から、小学校高学年を対象に編集したのではないかと思われる。

投稿欄からみるとどうか。応募作品の入選者は、小学校一年生から高校二年生までと幅広い。しかし、五、六年生が児童文章入選者の七割、児童詩入選者の六割を占めていて、小学校高学年が多いことがわかる。

一方、読者としての教師達の存在も、忘れてはならないだろう。「先生方へのお願い」（第一巻第二号）には、「北の子供」は児童の為の雑誌であると共に先生方の雑誌」（傍点筆者）とあり、童話、詩等の作品を寄稿してほしいと呼びかけている。また、「児童作品募集」の欄には、「作品は学校の先生にお渡しして送っていただきますよう。」とある。苦小牧在任の歌人・宮口良作氏は、小学校の教師時代、国語教育の実践に『北の子供』投稿欄を活用されたという。投稿欄をみていると、宮口氏のような熱心な読者―教師達の存在に気づかされる。

終刊の事情 終号となった第五巻第一号（一月号）には、次号の内容予告があるので、二月号は発行予定であったことがわかる。発行部数の項で述べたように、既に一年ほど前から減誌がはじまっていた。当時の編集人・名達修治が梁川剛一にあてた手紙からは苦境に立たされたことが伝わる。

出版界、わけでも児童雑誌の生命は今や全く暗澹たるものであり、未曾有の出版界の不振の波は良心的な刊行を続けていた中央一流雑誌「赤とんぼ」、「小国民世界」、「子供の青空」、「広場」の廃刊を見、ついに新潮社

発行の「銀河」ですら八月号をもって休刊を余儀ない衷情を露呈している情勢です。こうした破局の姿が澎湃として全国に起る中を汝々として北方の一角から「北の子供」の育成を続けることの至難性は今更言うまでもないこと（中略）須田主人の犠牲的精神と先生の温い手にすがって何としても此の棘の途を切抜きたいと今は死境を脱するのに懸命です。

一九四九年前後は、いわゆる良心的雑誌が、娯楽本位の児童雑誌の攻勢に敗れ、相次いで姿を消していった時期であった。『北の子供』も例外ではなかった。この頃、『北の子供』の宣伝拡張のため人形劇の学校巡演を続けていた和田義雄は終刊の事情を、次のようにも書いています。

印刷屋に多額の負債を残したと理事長は訴える。だがその倍以上の未集金を各地の小学校にこげつかせていたのも事実。人形劇で歩きながら子供たちに訊くと、誌代はちゃんと先生に渡したという。想像のとおりだ。学校から協会への送金が止まったのである。先生も父兄も学校運営も、みんなが苦しい時代だった。仕方のないことであつた。（注4）

## 二・編集人

奥付に記載されている編集者（第一巻第五号以降は編集人と記載）は、表2のとおりである。創刊号には新日本文化協会教材研究会とあり、個人名はない。執筆者紹介欄には「中村篤九・作家、新日本文化協会編集部長」とあること。また、中村篤九が、「播藍期の編集陣に活躍」（注5）とあるので、中村が編集の中心にいたと考えられよう。編集人の大野謙治、桜井志郎、名達修治については、可能な限り調べたが現在のところ手がかりはない。編集人交替についての記事は、大野の急死を知らせる報告（第三巻第十号）のみで、他にはみあたらない。

ここで和田義雄（一九一四―一九八四）についてふれておきたい。和田は児童文学者で、作品集に『白い劇

場』、『かぜをひいたくま』等がある。日本児童文学者協会北海道支部（一九五二年設立）の創立会員の一人。『森の仲間』同人。『北海道児童文学全集』（立風書房、一九八三年）の編集委員。『北の子供』に関わるようになったのは一九四六年三月で、終刊まで新日本文化協会に所属していたようだ。

和田はまた、人形劇、紙芝居、口演童話等の実践家としても活躍。豆本「ぶやら新書」の企画、出版を行う等多才な人として知られる。その多才ぶりは、『北の子供』でも発揮されている。『北の子供』には、代表作といわれる「峠の子ら」が掲載されているし、世界名作童話等も執筆。ときにはカットも手がけている。編集人としては、瀬鬼順の筆名で巻頭言にあたる「五月の詩」（第一巻第二号）、「楽しかった林間学校の記」（第一巻第四号）を執筆。美加久節（注6）の筆名で、コントを連載（第三巻第十号、第四巻第六号）している。

『北の子供』創刊号の附録は、『花の種』である。このユニークな着想も和田のものだったようだ。花の種を入れた西洋紙の小袋には、つぎのように書かれている。

此の種は『北の子供』から君にあげる贈物です。君が育ててゆく此の種が生長して花を開き、実を結ぶまでの育ち方を見て、新しい『北の子供』を手に入れる毎にその生長のありさまを知らせて下さい。（後略）

和田は「花の便りに応えて」（第一巻第五号）に、花の生長を知らせる手紙や絵が届き胸をおどらせていると書く。そして一九四六年七月三十日に誕生した次女に「美しい花の絵にちなんで絵美と命名」（注7）したという。編集者としての喜び、感動が伝わってくるようなエピソードである。

和田の児童文化の実践家としての力量も、読者対象の子ども会等で遺憾なく発揮されたようだ。『北の子供』の宣伝拡張のために結成されたという人形劇団「こまどり座」のリーダーとして、道内各地の学校を巡演。創刊三周年記念愛読者大会には、人形劇のほか役者として児童劇にも出演している。

次に『北の子供』と和田について書かれている文献にふれておきたい。『北海道文学大事典』（北海道新聞社一九八三年）雑誌編『北の子供』の項（執筆・渡辺ひろし）には、「代表佐藤信一編集発行、二号から和田

義雄。」とあり、同じ事典の人名編・和田義雄の項（執筆・加藤多一）には、「昭和二十一年から二十五年まで雑誌『北の子供』の編集長。」となっている。

しかし、発行人の項で明示したように、発行人と編集人とは同一ではない。また、編集人も表2のように、何度か交替している。従って、渡辺、加藤の記述は適切とは思えない。

和田自身はどのように記しているだろうか。「創刊号の出る頃からパトンは和田に引継いでいた。」（注8）「因みに編集は和田義雄。」（注9）とあり、ずっと一人で編集に携わっていたとも受取れる表現をしているが、別な資料には、「当時わたしは『北の子供』の編集をしていましたが、少したつてから人形劇や名作童話を公演しながら『北の子供』の読者を訪ねて旅をしつづけることになりました。」（注10）とも書いている。『北の子供』ではどうか。「うれしいお知らせ（聴く子供会）のこと」（第三卷第十二号、第四卷第五号）には、和田の写真入りで「講師はかつて本誌の編集をされた方」（傍点筆者）と紹介している。それらのことから「こまどり座」結成以降は、道内の学校巡演が和田の主な仕事になっていたと考えてよいのではないか。

表2 『北の子供』編集者

巻 号	編 集 者（人）
第1巻第1号	新日本文化協会教材研究会
第1巻第2号～第2巻第6号	和田 義 雄
第2巻第7号～第3巻第9号	大 野 謙 治
第3巻第10号～第4巻第4号	桜 井 志 郎
第4巻第5号～第5巻第1号	名 達 修 治

### 三、刊行の意図

創刊号は、次のような「出発のことば」ではじまる。

君はみましたか。

春のあたたかい光りをうけてぐんぐん伸びてゆく新しい草や木の芽の力を。

今、歴史は廻転し、私達をとりまく、自由なひろびろとした世界が展げました。この新しい世界の中へ歩き出そうとしている少年少女の一人が君です。

君は、何か心のそこからわき上がって来る力を感じるでしょう。そして新しい日本について考え、たのしい世界の夢をえがいているでしょう。

君と共に、新しい世界へ、ふみ出そうとする『北の子供』も、君にまけず、たくさん新しい世界への夢を持っておりまます。新しく、正しく、明るい人となり、又そのような世界をきづき上げるために、では共に、元氣よく、第一歩をふみ出しましょう。

そして「これからの内容」には、「世界の子どもとして育っていく児童と共に、新しい平和の道を拓いていく雑誌」であると宣言している。こうした子どもへの呼びかけは、『北の子供』を創ろうとしていた人達の真情の吐露といえるのではないだろうか。聖戦の名の下に大きな犠牲を払ったあげくの敗戦。価値観の崩壊。虚脱感からやっと立ち上がったとき、次代を担う子どもたちの問題を等閑視できないと気づいた大人達。戦中、子どもたちから全ての楽しみを奪い、戦後もなお困難な生活を強いていることへの責から子どもを励ましたいと考えた大人達。『新しい世界を一緒に創ろう。一緒に平和な道を拓いていこう』という呼びかけからは、人格を持った人間として子どもを認め、次代を拓く存在として子どもを把えようとする児童観の芽生えをみる事ができる。しかし、次の文からは同時に、多分に情感的であつたこともわかる。

慮げられている現実の中で、子ども達が今一番求めているものは、明るく楽しい夢と希望です。物質的に恵まれていない子供達にせめて精神的な潤いのいさかかなりとも与えたい。(創刊号「先生方へのお願い」)

このような弱さをもちながらも、新時代の担い手である子どもへの熱い思いが『北の子供』に結晶したといえよう。

#### 四・内容構成と執筆者

創刊号の「これからの内容」には、編集の指針とも思える次の三点が挙げられている。

一、夢をたのしさを子供に与えることを本旨とし、全体を文芸味豊かな香り高いものとする。  
二、世界を古今の広場で子供達にのびのびした平和な人間的教養を与えるものとする。

三、子供達の作品を取り上げて子ども自らが萌え出づるための温床たらしめる。

以上の指針に沿って内容構成されたと思われるが、大別すると①文芸作品、②評論、自然や郷土に関すること等、③投稿欄、④娯楽その他となる。編集人の項でみたように、たびたび編集人が替ったためか、内容構成も変わっていく。

①文芸作品 この雑誌の中心となるもので、量的にも多い。童話、小説等(約一六五)、詩・童謡等(約六五)、戯曲(三三)、随筆(五)、短歌、その他となっている。次に主な執筆者を挙げる。

〈北海道在住の作家〉松田善雄、支部沈黙、和田徹三、八森虎太郎、林良應、小田邦雄、和田義雄、坪松一郎(賢樹)、大塚みつる、奥保、更科源蔵、高倉新一郎、早川三代治、荒谷七生、目黒草水、諸角和儔、原田太郎、塚本長蔵、今井鴻象、古川實、藤田貞雄、松本達雄、加藤愛夫。

〈本州在住の作家〉川崎大治、石森延男、竹内てるよ、北畠八穂、北川千代、巽聖歌、草野心平、尾崎喜八、北園克衛、森莊巳池、丸山薫、武田亜公、工清定。

〈疎開作家〉百田宗治、木村不二男、浅野晃、寺島柁史、時雨音羽。

以上の作家をみると、道内外の多くの著名な作家達の執筆協力のあったことがわかる。児童文学者に限らず、これまで子ども作品を手がけたことのない作家達も執筆していて興味深い。これもこの期の特徴の一つといえよう。また、疎開で北海道に移住していた作家達の執筆協力も大きかった。

表3は、『北海道児童文学全集』に収録されている『北の子供』掲載の作品名と著者名をまとめたものである。この他『つららの笛』（北方民生協会、一九四八年）にも、童話、詩等八篇の収録されている。

ここで文芸作品のなかの伝記物語と絵物語についてふれておきたい。著名な人物の仕事や生涯を描いた伝記ものが、かなりの数にのぼる。表4にみるように「科学者伝記」、「世界文豪物語」、「〇月生れの偉人」等の表題で連載されている。取上げている人物も圧倒的に外国人が多いし、日本人では作家に焦点があたっているようだ。作品の三分の二は、木村不二男の筆である。

色刷の絵物語が登場するのは第三巻第八号からで、以後終号まで続く。表5のように世界名作童話である。物語は和田徹三、絵では梁川剛一（筆名・久我恭介も含めて）が活躍。戦後間もなくのこと紙質も悪く、印刷

表3 『北海道児童文学全集』収録作品

巻	題名	作者
第2巻	茂助爺さんと林檎園	八森虎太郎
	故郷	吉田十四雄
	峠の子ら	和田 義雄
第4巻	雁	竹内てるよ
	蛙の村	古川 實
	蛇にかまれたお父さん	武田 亜公
第5巻	新しい魔法の町	川崎 大治
第3巻 詩と童話	乳しぼりの歌	松田 善雄
	月夜の畑農地	大塚みつる
	狩勝峠	〃
	アカシア咲く街	〃
	雪物語	竹内てるよ
	北の子どもは知っている	北畠 八穂
	春の海へ	坪松 一郎
	向日葵	荒谷 七生
	朝顔の詩	支部 沈黙
	北のお正月	〃
	はるけき旅の日	工 清定
	ひそやかな秋	小田 邦雄
	日くれ牧場	奥 保
	鮫組の海	巽 聖歌
	ゆき	草野 心平
	ベニマシコ	尾崎 喜八
	とんびの笛	時雨 音羽
父を持つ	木村不二男	
秋の空は	〃	
とくまびの歌	百田 宗治	
雪中の春	〃	
冬が来る	北園 克衛	

もよくはないが、抒情的な絵やカラー印刷に、当時の子どもたちがどんなに喜んだか想像に難くない。「文芸味豊かな香り高いもの」を目ざしていた『北の子供』も、次第に売れ行きが悪くなり終号に近くなる

表4 『北の子供』伝記

題名	執筆者	巻号
偉人に学ぶ ジョージ・ワシントン	三浦 一	第1巻第1号[通巻1号]
こんな少年に 「ガリレオ・ガリレイ」	木村不二男	第1巻第4号[通巻4号]
科学者伝記 幼い日のワット	木村不二男	第2巻第2号[通巻7号]
科学者伝記 アイザックの風車(1)	木村不二男	第2巻第3号[通巻8号]
連載(2)	木村不二男	第2巻第4号[通巻9号]
科学者伝記 バストールと牧童ジャン	木村不二男	第2巻第5号[通巻10号]
雨ニモマケズ 宮沢賢治の話(1)	小田 邦雄	第2巻第6号[通巻11号]
連載(2)	小田 邦雄	第2巻第7号[通巻12号]
科学者伝記 ガス坊チャールス	木村不二男	第2巻第8号[通巻13号]
一茶の生涯	小田 邦雄	第3巻第5号[通巻19号]
詩人ワルト・ホイットマン	高橋 英衛	第3巻第7号[通巻21号]
世界文豪物語(1)(ロシア)	寺島 征史	第3巻第8号[通巻22号]
マキシム・ゴーリキー		
9月生まれの偉人 ドボルザーク	木村不二男	第3巻第9号[通巻23号]
世界文豪物語(2)フランス	寺島 征史	第3巻第9号[通巻23号]
ヴィクトル・ユゴー		
世界文豪物語(3)ドイツ	寺島 征史	第3巻第10号[通巻24号]
ヘルマン・ヘッセ 小さな聖者		
10月生まれの偉人	木村不二男	第3巻第10号[通巻24号]
ウエスティングハウス		
11月生まれの偉人	木村不二男	第3巻第11号[通巻25号]
マリー・キュリー		
12月生まれの偉人	木村不二男	第3巻第12号[通巻26号]
ルイ・バストール		
1月生まれの偉人	木村不二男	第4巻第1号[通巻27号]
ジェームス・ワット		
2月生まれの偉人	木村不二男	第4巻第2号[通巻28号]
ニコラス・コペルニクス		
3月生まれの偉人	木村不二男	第4巻第3号[通巻29号]
ミケンランジェロ		
感情物語 友情の手紙	小林 覚一	第4巻第3号[通巻29号]
[野口英世の話]		
4月生まれの偉人 アンデルセン	木村不二男	第4巻第4号[通巻30号]
5月生まれの偉人 ダンテ	木村不二男	第4巻第5号[通巻31号]
伝記物語 鈴木三重吉先生	木村不二男	第4巻第5号[通巻31号]
6月生まれの偉人 ルソー	木村不二男	第4巻第6号[通巻32号]
7月生まれの偉人 幸田露伴	木村不二男	第4巻第7号[通巻33号]
偉人の面影	木村不二男	第4巻第9号[通巻35号]
[ファラデー○ラマルク]		
楽聖と謳われるまで	木村不二男	第4巻第11号[通巻37号]
○リスト○ベートーヴェン		

頃、掲載作品にも変化が見え始める。次号の内容広告や目次にも、「読切童話」、「痛快小説」、「熱血痛快小説」、「冒険実話小説」等の用語が使われはじめる。

②評論等 「平和な人間の教養を与えたい」という願いの具体的な展開なのだろう、「子ども評論」、「こともと自然」、「科学教室」、郷土の北海道に関する記事、「文化だより」、「名画鑑賞」もあって多彩である。それぞれの分野の専門家をえて、充実した内容になっているが、編集人も変わったせいもあって多彩ではない。

「子ども評論」では、「封建主義の話」、「資本主義の話」、「新しい憲法の話」等を掲載。創刊号「来月

の内容」には、「郷土・自然に対する見方を養うために「ふるさと欄」と「こどもと自然」の頁を設けると予告。「ふるさと欄」と銘うってはいないが、郷土・北海道を意識した内容も多い。六回連載の「新しい北海道の歴史」は、中津川俊六の執筆。その他、「農産物薄荷の話」、「温度とお米のとれ高」、「将来の北海道」等。「こどもと自然」でも、北海道の子どもに身近な「渡り鳥」、「野生鳥類の保護」、「天然凍魚こまいの話」等がある。詩人であり、北海道の養鶏に指導的役割を果たしたといわれる加藤愛夫が「ヒヨコの話」を執筆

表5 『北の子供』絵物語

ロビンソン漂流記 連載1	幸田 幽	第2巻第4号[通巻9号]
ロビンソン漂流記 連載2	〃	第2巻第5号[通巻10号]
ロビンソン漂流記 連載3	〃	第2巻第6号[通巻11号]
名作物語アンデルセン原作[色刷]		第3巻第8号[通巻22号]
神様のそばに咲く花	文・和田徹三	絵・能勢真美
世界名作童話グリム[色刷]		第3巻第9号[通巻23号]
金の鳥	文・和田徹三	絵・梁川剛一
世界名作童話トルストイ[色刷]		第3巻第10号[通巻24号]
イワンの馬鹿	文・和田徹三	絵・久我恭介
世界名作童話アミーチス原作[色刷]		第3巻第11号[通巻25号]
愛の学校	文・和田徹三	絵・梁川剛一
世界名作童話エクトル・マロー原作[色刷]		第3巻第12号[通巻26号]
家なき児	文・和田徹三	絵・梁川剛一
世界名作童話マーク・トウェン原作[色刷]		第4巻第1号[通巻27号]
ハックスベリー物語	文・和田徹三	絵・梁川剛一
中国の童話[色刷]		第4巻第2号[通巻28号]
あかがね橋をわたった豚ころし	文・和田義雄	絵・清水裕幸
イギリス童話[色刷]		第4巻第3号[通巻29号]
ロビンと小人	文・小野三男治	絵・清水裕幸
オランダの童話[色刷]		第4巻第4号[通巻30号]
ジョンの冒険	文・三浦 一	絵・渡邊正敏
フランスの童話[色刷]		第4巻第5号[通巻31号]
ガラスの小舟	文・和田義雄	絵・梁川剛一
ドイツ童話[色刷]		第4巻第6号[通巻32号]
足なが・目だま大耳	文と絵 今田敬一	
イギリスの童話[色刷]		第4巻第7号[通巻33号]
宝の谷グラック	文・和田徹三	絵・岸田賢二
渚の神様[色刷]		第4巻第8号[通巻34号]
	文・和田義雄	絵・村岡 登
		第4巻第9号[通巻35号]
巖窟王[色刷] 連載1	文・椿 達彦	絵・梁川剛一
巖窟王[色刷] 連載2	〃	第4巻第10号[通巻36号]
巖窟王[色刷] 連載3	〃	第4巻第11号[通巻37号]
鉄仮面[色刷] 連載1	〃	第5巻第1号[通巻38号]
	文・椿 達彦	絵・梁川剛一
誌上紙芝居 光の城物語 連載1	脚本・川崎大治	第3巻第4号[通巻18号]
光の城物語 連載2	脚本・川崎大治	第3巻第19号[通巻19号]
ジークフリート	絵・梁川剛一	第4巻第5号[通巻31号]

している。科学ものは少ないが、「だれでもわかる原子力の話」等を掲載。「名画鑑賞」は、表6のように九回連載。創刊号と第一巻第二号は口絵で、創刊号にはアート紙が使用されている。第一巻第三号から第二巻第二号までは裏表紙に掲載。解説は能勢真美だが、第二巻第一号以降、署名がない。

創刊号「文化だより」には、「文化の人」として努力するため「役立つ」お知らせをすると書かれている。アメリカ教育使節団のこと、総選挙のこと等、社会の動きや子どもの雑誌や新聞の刊行、そして道内各地の子供会のこと等が取りあげられているが、第一巻第五号までで終わっている。北海道、日本各地、そして海外の時の話題等を掲載した「北の子供新聞」が登場するのは、第三巻第十二号からで、これは終号まで続いた。

③投稿欄 児童作品の募集は、児童画、児童文章、児童詩について行われた。

児童画の入選作品は、創刊から第二巻第二号までの扉に掲載されている。作品募集の広告はその以降の号にもみられるが、入選作品の掲載はない。選者は能勢真美。第三巻第七号には、新日本文化協会主催の北海道児童図画移動展覧会入賞作品八点と、能勢の批評が掲載されている。

児童文章の入選作品は約一九〇篇。選評は飯田廣太郎（一八九四～一九五四）。戦前から国語教育、綴方教育の実践家、理論家とし活躍、

表6 『北の子供』名画鑑賞

絵	画	解説者名	巻	号
スペインのアルタミラ	洞穴内部の多色壁画	能勢 真美	第1巻	第1号[通巻1号]
引網によって	種々の魚をとっているところである	能勢 真美	第1巻	第2号[通巻2号]
ギリシャの美術		能勢 真美	第1巻	第3号[通巻3号]
法隆寺の壁画		能勢 真美	第1巻	第4号[通巻4号]
聖母像		能勢 真美	第1巻	第5号[通巻5号]
つどい			第2巻	第1号[通巻6号]
荆の冠			第2巻	第2号[通巻7号]
母といとし子			第2巻	第3号[通巻8号]
ほはえみ			第2巻	第4号[通巻9号]

著書も多い。「北の子供」の選評を担当していた時期、童話誌『おはなし』の編集委員としても活躍、月号巻頭言にあたる「お母様方へ」を執筆している。「北の子供」第四巻第二号は、飯田が病気のため佐藤麟太郎が担当している。

児童詩の入選作品は約二六〇篇。第二巻第四号以降は児童詩となっているが、それ以前は自由詩、詩と童謡等の用語が使われている。選評者は、札幌に疎開していた詩人の百田宗治（一八九三～一九五五）。一九四八年九月離札後も選評を続け、第四巻第九号まで担当。第十号は選評なし。第十一号は和田徹三が担当。第五巻第一号は百田宗治選とあるが、批評は掲載されていない。

投稿とは、性格を異にするが、当時、真駒内にあったアメリカの小学校生の作品も掲載されている。作文が中心だが、第二巻第九号以降、月号掲載。第四巻三号からは題も親善文となっている。

その他、「ローマ字教室」も掲載されている。

④スポーツ・娯楽等 スポーツでは、スキー、水泳、野球等図解入りで掲載。漫画は第二巻第九号から終号まではほぼ月号の掲載。その他コント、工作等の頁もあった。

全三十八冊中、附録がついたのは三冊。創刊号は「花の種」で種の入った西洋紙の小袋には、前述のような「此の種について」の文章が印刷されている。

第三巻第一号・新年号には「北の子供菜」がつけられている。五、五センチの幅、十五、五センチの小さなもので、表には梁川剛一の絵・裏面は時間表として使えるようになっていた。

第四巻第一号・新年号の附録は「ローマ字カルタ」とある。小野三男治の文、小原二郎の絵とあるが、これだけは未見である。

次に表紙絵について特徴的なことのみ記したい。表7は、表紙絵の表題と画家についてまとめたものである。

①創刊～第二巻第三号までは道内の作家で、第二巻第四号～終号までは梁川剛一の筆による。②創刊号のみ表紙・裏表紙とも使用。③表紙の文字は、創刊号～第二巻第三号までは左から右への横書きで、第二巻第四号～

終号までは現在のように右から左への横書きとなっている。④第三卷第九号〜第四卷第三号までは、表題がない。⑤創刊〜第一卷第四号までは、表紙に登場する子どもたちは、二人〜数人であるが、第一卷第五号以降終

表7 『北の子供』の表紙

巻	号	題	画家名
第1巻	第1号[通巻1号]	春の子供	能勢 眞美
第1巻	第2号[通巻2号]	かけくらべ	能勢 眞美
第1巻	第3号[通巻3号]	風薫る	能勢 眞美
第1巻	第4号[通巻4号]	蟬取り	能勢 眞美
第1巻	第5号[通巻5号]	雪晴れ	山田 義夫
第2巻	第1号[通巻6号]	スケート	山田 義夫
第2巻	第2号[通巻7号]	福寿草	山田 義夫
第2巻	第3号[通巻8号]	登校	岸田 賢二
第2巻	第4号[通巻9号]	舟	梁川 剛一
第2巻	第5号[通巻10号]	山上の征服	梁川 剛一
第2巻	第6号[通巻11号]	釣の名人	梁川 剛一
第2巻	第7号[通巻12号]	葡萄とり	梁川 剛一
第2巻	第8号[通巻13号]	僕たちも一人前	梁川 剛一
第2巻	第9号[通巻14号]	クリスマス	梁川 剛一
第3巻	第1号[通巻15号]	はねつき	梁川 剛一
第3巻	第2号[通巻16号]	得意とするわざ	梁川 剛一
第3巻	第3号[通巻17号]	お止しなさいよ	梁川 剛一
第3巻	第4号[通巻18号]	新入学	梁川 剛一
第3巻	第5号[通巻19号]	こいのぼり	梁川 剛一
第3巻	第6号[通巻20号]	炊事遠足	梁川 剛一
第3巻	第7号[通巻21号]	ボート漕ぎ	梁川 剛一
第3巻	第8号[通巻22号]	海水浴	梁川 剛一
第4巻	第4号[通巻30号]	入学	梁川 剛一
第4巻	第5号[通巻31号]	さくら咲く頃	梁川 剛一
第4巻	第6号[通巻32号]	時の記念日	梁川 剛一
第4巻	第7号[通巻33号]	風薫る水辺	梁川 剛一
第4巻	第8号[通巻34号]	海風を浴びて	梁川 剛一
第4巻	第9号[通巻35号]	優勝を期して	梁川 剛一
第4巻	第10号[通巻36号]	収穫	梁川 剛一
第4巻	第11号[通巻37号]	雪ゆりそめて	梁川 剛一
第5巻	第1号[通巻38号]	明けゆく元朝	梁川 剛一
第3巻	第9号[通巻23号]	～第4巻第3号	梁川 剛一

\*第3巻第9号〜第4巻第3号までは無題

号まで、男児、女児の二名が描かれている。

『北の子供』全三十八冊のうち、三十冊を手がけたのは梁川剛一（一九〇二〜一九八六）である。梁川は函館出身の彫刻家であり、児童読物の挿絵で多くの少年を魅了した挿絵画家でもあった。戦災にあい一九四五年七月札幌に疎開、一九四九年六月東京に戻ってからも終号まで表紙画を描き、絵物語の挿絵も担当。新日本文化協会の理事としても名を連ねており、『北の子供』の強力な支え手であったといえよう。

## 五、新日本文化協会と児童文化活動

財団法人・新日本文化協会は、どのような活動を展開していたのであろうか。『北の子供』をみていると、読者対象の募集事業だけでなく、さまざまな児童文化活動を行っていたことがわかる。まず、出版活動についてみる。初期の出版活動については、『北海道出版綜合目録』（日本出版協会北海道支部、一九四七年）で、内容を知らることが可能である。新日本文化協会の出版部門には、「児童、文芸」と記載されていて、『北の子供』のほかに児童書や文芸書も出版していた。同書の書籍目録には、一九四五年七月から一九四七年五月に出版された書籍の書名・著者名等が記されている。新日本文化協会の項によると、塚本長蔵による児童書三冊と、佐多稲子、大庭さち子、壺井栄、江戸川乱歩等の文芸書七冊が出版されたことになっている。その他、『北の子供』には「世界名作紙芝居」前十巻の予約募集広告も掲載されていて、紙芝居出版も手掛けていたことがわかる。

『北の子供』読者を対象とした催物では、「林間学校」、「愛読者大会」、「聴く雑誌の会—北の子供会」等が行われている。特筆すべきことは人形劇団「こまどり座」の活動である。「こまどり座」は、一九四八年十一月に『北の子供』の宣伝拡張のために結成され、道内各地の学校を巡演した。和田を中心に三人位のメンバーで公演したようだが、宣伝のためとはいえ専属の人形劇団をもっていた出版社は、他になかったのではないか。日常的な娯楽はラジオで、人形劇等なかなかみられなかった時代のこと、この巡演は子どもたちに随分と喜ばれたようだ。第三卷第十二号の広告によると、紙芝居、童話、人形劇等約二時間のプログラムとある。希望によつては公演後、高学年対象に「人形劇のやり方」、雑誌のできるまで、の資料をみせ講演もすると書かれている。『北の子供』廃刊後は、プロの人形劇団として、一九五二年まで活動を続けた。

。紙芝居の筋書募集（第一卷第三号）

。北海道の、子供の歌、歌詞募集（第二卷第八号）

。北海道児童図画移動展覧会作品募集（第三卷第五号）

。開道八十年記念作品募集（第四卷第二号）

。創刊三周年記念児童読物懸賞募集（第四卷第六号）

その他、紙芝居の貸出も行っていたようだ。第三卷第九号には所蔵紙芝居の作品名が記載されていて、「五日每一部十五円」と貸出料も記されている。事務所の階下には、「北の子供会館」がつくられ、子供会等に使われていたように創刊号には、次のような案内が載っている。

「北の子供会館」——新日本文化協会階下

みんなのための「お伽のお部屋」紙芝居・童話・劇・舞踏、大人もいこへば、子供も歌い見たり、聞いたり楽しく集う子供の世界の夢の国——

このように新日本文化協会は出版活動だけでなく、児童文化の創造、普及、鑑賞等の多様な活動を展開していたことがわかる。次の文は財団法人・新日本文化協会の登記簿謄本に記載されている設立の目的である。

平和日本ノ本旨ニ則リ青少年ニ対スル科学、芸術等指導実践ヲ通シテ道民生活ノ文化的水準ヲ昂メ以テ新日本文化創成ニ寄与スルヲ以テ目的トス

この目的の実現にむけて、さまざまな児童文化活動が展開されてきたが、その中心となる活動が『北の子供』の刊行であったと考えられよう。

## むすび

短期間ではあったが、戦後北海道で内容の充実した児童雑誌が発行されたのは、『北の子供』だけである。敗戦からわずか八カ月、中央から遠い札幌で『北の子供』の発行を可能にした要因は何であろうか。

第一に、時代を担う子どもたちへの熱い期待と、児童文化活動に対する情熱を持った大人達がいたことであ

ろう。刊行の意図で述べたように、失意の中から立ち上ったとき、次代を拓く子どものために働きたいと考え、動きだした大人達。子どもたちに「新しい日本を建てなおす力を養ってもらおう」（創刊号「編集部だより」）ことを願って雑誌を創ろうと情熱を傾けたのではないか。創刊当時の『北の子供』をみると、そうした大人達のひたむきな思いが伝わってくる。また、そのような熱意に動かされた多くの人々の協力で生み出されたといえよう。

第二に、そうした願いを具体化できる物的条件があったことが指摘できる。戦火をまぬがれた北海道には紙があり、操業可能な印刷工場があった。空襲で壊滅状態だった東京の出版社が、札幌に次々と支社や出張所を設けて出版活動をはじめた。加えて、言論、出版の自由が回復したこともあって、地元の人達による小さな出版社が相次いで誕生。新日本文化協会も、その一つであった。一九四五年七月に十指に満たなかった出版社が、二年後の一九四七年七月には百七社に急増しているのを見ても、出版活動がいかに盛んであったかを知ることができよう。

第三に、出版活動が活発化する中で、人的条件―執筆者に恵まれたことも幸いした。出版界の活況が一時的なものであったにせよ、出版社、作家等の交流が盛んになり、多くの優れた執筆者の協力が得られたのだろう。

本稿では『北の子供』の概要を明らかにできたが、全体像に迫るためには次の課題への取組みが必要となる。第一に、掲載作品の内容を検討することである。加えて、作家の初出作品や、作家の作品年譜への位置づけ等も行いたい。現状では、著名な児童文学研究書の児童文学の年表や童謡年表等に、『北の子供』誌掲載の作品は位置づけられていないし、作家個人の作品年譜にも位置づけられていないことが多い。そうした研究をすすめるなかで、『北の子供』を北海道の児童文学史だけでなく、日本の児童文学史へも位置づけることができるのではないかと考える。

第二に、投稿作品―児童文章、児童詩の分析と、選評者の指導観の検討も行いたい。児童作品はまた、当時

の子どもの貴重な生活史の記録でもあり、興味がつきない。指導者の百田宗治は戦前から、児童詩指導の第一人者として知られている。しかし、百田の児童詩指導に関する文献をみても、『北の子供』での指導についてはぬけおちているのが現状である。

第三に、新日本文化協会が、北海道の児童文化活動へ果たした役割について検討をすすめたい。鈴木喜三夫は「この雑誌が果たした出版面や文学的役割も大変に重要だが、忘れてならないのは、児童文化全般にわたって及ぼした影響の大きさだろう。」(注11)と指摘している。先にみたように新日本文化協会の児童文化活動の展開は、中央で発行されていた雑誌にはみられないことである。これまで雑誌の評価は、どれだけ新人作家を育てたか、どのような作品を掲載したかを基準に行なわれることが多かった。しかし、『北の子供』のように、地域に根ざした児童文化活動・運動を展開しながら発行されていた雑誌も存在したのである。そうした意味で、当時の地域の児童文化活動・運動との関わりについても検討をすすめなくてはならない。以上三点について検討することで、『北の子供』の全体像を明らかにすることができよう。

この研究をすすめるにあたり、ご指導下さいました国際児童文学館の西田良子先生、貴重な資料を提供して下さいました梁川美恵子様、本多幸一様に心から感謝の意を表します。そのほか、宮口良作様、萬宮富夫様等たくさんの方達に、お話を聞かせていただくことができました。記してお礼申し上げます。

## 注

(注1) 鳥越信「児童文学における「雑誌」の位置―『国際児童文学館紀要』 大阪国際児童文学館、一九八

五年、三頁

(注2) 同右 十六頁

(注3) 和田義雄『私の五十三次』私家版・非売品

- (注4) 同右
- (注5) 和田義雄「戦後十年の本道児童文学回顧」——『教育月報』四月号 北海道教育委員会 一九五六年、四十二頁
- (注6) 和田義雄が本多幸一氏にあてた手紙で判明
- (注7) 3の前掲書
- (注8) 5の前掲書 四十二頁
- (注9) 和田義雄「北海道児童文学の潮流」——『北方ジャーナル』三月号 KK北方ジャーナル 一九七七年、七十六頁
- (注10) 和田義雄「解説」——『北海道児童文学全集』第五卷 立風書房 一九八三年 三六六頁
- (注11) 鈴木喜三夫「各地の児童文学・文化——札幌周辺」『北海道の児童文学』 北海道新聞社 一九七九年、一三六頁

### 参考文献

- にれの樹会編『北海道の児童文学』 北海道新聞社 一九七九年
- 小川未明ほか監修『新選日本児童文学』 小峰書店 一九五九年
- 百田宗治編『日本児童詩集成』 河出書房 一九五六年
- 日本児童文学者協会編『児童文学の戦後史』 東京書籍 一九七八年
- 日本文学研究資料刊行会編『児童文学』 有精堂 一九七四年
- 日本児童文学者協会編『復興期の思想と文学』 偕成社 一九七九年

## 二・児童雑誌『北の子供』細目

谷 暎子

児童雑誌の場合表8をみてもわかるように、全巻揃を所蔵している図書館は極めて稀なので、容易に原典をみる事ができない。従って、史的な意味をもつ雑誌の細目を作成し公表することは、児童文学・文化史研究を進める上で大きな意味をもつ。

細目は雑誌の目次を写したものではない。原典の一頁ずつを丁寧にあたり、そこに記載されている表題をもれなく記録したものである。掲載作品、執筆作家はもちろん、目次にはあらわれない事柄をも読みとることが可能となり、雑誌の性格を実証する上でより有効な資料となる。

この細目は、和田花子氏が所蔵されていた『北の子供』全三十八冊と、後に、平沢秀和氏、道立図書館、大阪国際児童文学館、国立国会図書館所蔵の資料を使わせて頂き作成することができた。ここに感謝の意を表する。

### 細目・凡例

- 一、本細目は『北の子供』各号に掲載された作品の表題を、頁を追って記載したものである。したがって記載内容と各号の目次とは必ずしも一致しない。
  - 一、記載にあたっては、本文の表題をそのまま記載した。また、内容を示す（童話）等表記は、本文、目次のいずれの場合も記載した。
  - 一、記載にあたっては、各表題ごとに改行すること原則とした。しかし、一頁に複数の表題のある場合は、各表題間に○印を入れた。
  - 一、著者名は表題の後に記載したが、肩書きは省略した。
- 一、読者の投稿については、表題、氏名とも割愛した。
  - 一、挿絵、挿図は原則として省略したが、本文の内容を理解する上で必要な場合は記載した。
  - 一、漢字については、著者名、固有名詞を除いて新字体にあらためた。
  - 一、注記、補記は「」内に記した。
  - 一、表紙1は表紙を、表紙4は裏表紙を示し、表紙2は表紙1の裏面、表紙3は表紙4の裏面を示す。

※表8は『北の子供』の所蔵状況を示す。

表8 『北の子供』所蔵一覧

巻	号	北海道立 図書館	北海道文学館	国立国会 図書館	大阪国際 児童文学館
第1巻	1	●			
	2	●			
	3	●	●		
	4	●			
	5	●			●
第2巻	1	●			
	2	●			
	3				●
	4	●			
	5	●			
	6	●			
	7	●			
	8				
	9	●			●
第3巻	1	●			
	2	●			
	3				●
	4	●			
	5	●			
	6				
	7	●			
	8				
	9	●			
	10				
	11				
	12			●	
第4巻	1				
	2	●		●	
	3			●	●
	4	●		●	
	5	●		●	
	6	●		●	●
	7			●	
	8	●		●	
	9			●	
	10				
	11				
第5巻	1				

※一九九〇年八月十二日付「北海道新聞」に、米メリーランド大学・ブランゲ文庫で「終戦直後の道内出版物を大量に発見」されたことが報道された。その後の調べで『北の子供』は、一九四九年秋、占領軍の検閲が終了するまでの三十二冊が保存されていることがわかった。

第1巻第1号〔通巻1号〕

一九四六（昭和21）年四月三十日

〔春の子供〕

〔能勢 真美〕 表紙1

〔白〕表紙2

〔広告〕北の子供会館

〔二頁〕

〔目次〕北の子供〔創刊号（第1巻第1号）〕〔見開き二頁〕

出発の言葉

〔二頁〕

スペインのアルタミラ洞穴内部の多色壁画

〔口絵〕〔アート紙・図版1〕

名画鑑賞〔解説〕

能勢 真美

スペインアルタミラ洞穴内部の多色壁画〔図版裏〕

〔児童画〕北の子供第1巻第1号〔扉〕

ぶらんこ（童話） 松田 善雄 2～11

目つぶり小父さんこんにちわ（童話） 中村 篤九 12～18

〔児童詩〕（特選）

こども評論 封建主義の話 櫻井 忠 20～29

これからの内容 松田 善雄 30～31

乳しぼりの歌（詩）

偉人に学ぶ ショージ・ワシントン 三浦 一 32～37

創刊号に執筆された人

文化への夢 子供の世界をつくる夢

藤澤 健夫 38～43

文章 飯田廣太郎〔8篇〕

児童作品募集 飯田廣太郎 44～55

選評 来月の内容 飯田廣太郎 56～57

春の詩 百田宗治〔4篇〕 百田 宗治 58～59

春の詩選評○佳作〔氏名〕 小林 英一 60～61

文化だより 編集部より 62～63

奥付 64

春の子供〔表紙1と続く〕 能勢 真美 64

此の種について〔花の種の入った袋に印刷〕 〔白〕表紙3 64

〔かけくらべ〕 能勢 真美 表紙4

遊び場〔詩〕 大塚みつる 表紙2

引綱によって種々の魚をとっているところである 〔口絵〕〔図版1〕

第1巻第2号〔通巻2号〕

一九四六（昭和21）年五月三十一日

〔能勢 真美〕 表紙1

大塚みつる 表紙2

〔口絵〕〔図版1〕

名画鑑賞 エジプトの美術

〔解説〕 能勢 眞美 〔図版裏〕

〔広告〕ともだち 児童新聞 ともだち社

〔1〕

〔目次〕北の子供〔五月号（第1巻第2号）

〔2〕3〕

五月の言葉（詩）

〔瀬鬼 順〕

〔4〕

〔児童画〕北の子供第1巻第2号〔扉〕

5

赤い鍵（童話）

和田 徹三

6〕15

故郷（1）（創作）〔連載の1〕

吉田十四雄

16〕23

来月の内容

23

自由詩（特選）〔2篇〕

24〕25

こども評論 資本主義の話

櫻井 忠

26〕32

鶏小舎（童話）

坪松 一郎

33

こどもと自然 春の小鳥

井上 元則

34〕38

偉人の言葉（先生に説明していただきますよう）

39

文章 飯田廣太郎先生選

飯田廣太郎

40〕46

選評

飯田廣太郎

47〕49

児童作品募集

49

自由詩 百田宗治先生選

百田 宗治

50〕51

選評

百田 宗治

52〕53

文化だより

小林 英一

54〕55

編集部より

56

奥付

56

先生方へ○本号に新しく執筆された人

○〔文章入選者氏名〕 表紙 3

広告 新日本文化協会出版の児童読物

〔小さいな手品師○子供の手品○童話まつり〕 表紙 4

第1巻第3号 〔通巻3号〕

一九四六（昭和21）年十一月十日

〔風薫る〕

〔能勢 眞美〕 表紙 1

北の子供発刊記念会の記

表紙 2

先生方へのお願ひ○児童作品募集

〔1〕

〔目次〕北の子供〔六・七月号合併号

（第1巻第3号） 〔2〕3〕

六月の言葉

百田 宗治

〔4〕

〔児童画〕北の子供第1巻第3号〔扉〕

武田 亜公

6〕14

アイス屋さんの親子（童話）

武田 亜公

6〕14

詩（特選）

武田 亜公

6〕14

児童文章（特選）

吉田十四雄

16〕17

故郷（2）〔連載の2〕

吉田十四雄

18〕23

社告〔価格改定〕

櫻井 忠

24〕31

こども評論 農民の話〔図版2〕

櫻井 忠

24〕31

こども評論 農民の話〔図版2〕

櫻井 忠

24〕31

こどもと自然 ヒヨコの話

加藤 愛夫

34〕37

紙芝居筋書の募集

文章 飯田廣太郎先生選〔6篇〕

38  
47

八月の言葉(文)

更科 源蔵

〔4〕

選評 飯田廣太郎

48  
49

〔児童画〕北の子供 第1巻第4号〔扉〕  
すずらん(童話)〔連載の1〕 まつだよしを

俳句〔児童作品3篇〕○佳作〔氏名〕

49

〔児童詩〕(特選)

吉田十四雄

6  
12

詩と童話 百田宗治選〔3篇〕

50  
52

故郷(3)〔連載の3・終〕

支那 沈黙

14  
21

選評○佳作〔氏名〕

50  
52

朝顔の詩(詩)

支那 沈黙

20  
21

選外佳作〔入選者氏名〕文章・自由詩・図画

53

こどもと自然 植物園の鳥〔挿図5〕

名取 武光

22  
30

文化だより

○みなさんへ  
小林 英一 54  
45〔55〕

楽しかった林間学校の記

〔瀬鬼 順〕

32  
34

編集部だより

56

児童文章(特選)

飯田廣太郎

35  
40

奥付 廣告〔百田宗治 はる・なつ・あき・ふゆ〕

56

文章 飯田廣太郎先生選〔4篇〕

飯田廣太郎

40  
41

名画鑑賞3 ギリシヤの美術〔図版1〕

表紙3

選評 自由詩 百田宗治先生選〔6篇〕

飯田廣太郎

42  
43

〔解説〕能勢 眞美

表紙4

自由詩選外佳作 文章選外佳作〔氏名〕

百田 宗治

44  
45

第1巻第4号 〔通巻4号〕

一九四六(昭和21年)十二月一日

〔蟬取り〕

〔能勢 眞美〕

表紙1

文化だより

小林 英一

46  
48

夏のうた(歌)

荒谷 七生

表紙2

特集のページ○特集の内容

坪松 一郎

49

〔北の子供〕遅刊のお詫び

〔北の子供〕係一同

〔1〕

童謡詩・風の中の子供

百田 宗治

50  
57

〔目次〕北の子供〔八・九月特集号〕

〔第1巻第4号〕

〔2〕3

月夜の帰農地(詩)

大塚みつる

58  
59

こんな少年に（ガレリオ・ガレイ）

木村不二男 60 ~ 66

木の葉のラッパ 石森 延男 67 ~ 79・66

先生方へのお願い○児童作品募集

編集部だより [80] 表紙 3

奥付 表紙 3

名画鑑賞 4 法隆寺の壁画〔図版1〕

〔解説〕 能勢 眞美 表紙 4

### 第1巻第5号〔通巻5号〕

一九四六（昭和21年）十二月三十一日

〔雪晴れ〕 [山田 義夫] 表紙 1

〔児童詩〕（特選） 表紙 2

花のお便りに心えて○〔児童画〕 和田 義雄 [1]

〔目次〕〔北の子供〕十一・十二月合併号

（第1巻第5号） [2 ~ 3]

一二月の言葉 符野 浩 4

〔児童画〕特選 北の子供 第1巻第5号〔扉〕 5

すずらん（童話）〔連載の2・終〕

まつだよしを 6 ~ 12

随筆 私の故郷を語る 更科 源蔵 13 ~ 15

蛙の村（童話） 古川 實 16 ~ 22

文化だより 小林 英一 22 ~ 23

歌と句〔児童作品3篇〕 支部 沈黙 24 ~ 25

童謡 貝殻 26 ~ 29

児童文章（特選） 文章 飯田廣太郎先生選（7篇） 30 ~ 41

佳作〔氏名〕○選外佳作〔氏名〕 佳作〔氏名〕○選外佳作〔氏名〕 41

入選〔児童画4篇〕 入選〔児童画4篇〕 33 ~ 36

選評 飯田廣太郎 42 ~ 43

自由詩 百田宗治先生選〔8篇〕 44 ~ 46

選外佳作〔氏名〕 選外佳作〔氏名〕 46

選評 百田 宗治 46 ~ 47

編集部より 編集部より 48

奥付 奥付 48

先生方へのお願い○児童作品募集 先生方へのお願い○児童作品募集 表紙 3

名画鑑賞 5 [聖母像]〔図版1〕

〔解説〕 能勢 眞美 表紙 4

〔スケート〕 [山田 義夫] 表紙 1

### 第2巻第1号〔通巻6号〕

一九四七（昭和22年）一月二十五日

〔新年の挨拶〕 今月の言葉 高倉新一郎 1

表紙 2

表紙 1

表紙 1

北のお正月(詩) [色刷] 支部 沈黙 2 } 3  
 やっとこせ(詩) [色刷] 巽 聖歌 4 } 5  
 北海の海鳴り(詩) [色刷] 坪松 一郎 6 } 7  
 狩勝峠(詩) [色刷] 大塚みつる 8

児童詩(特選) 9

「目次」北の子供 二月号(第2巻第1号) [10 } 11]

「児童画」特選 北の子供 第2巻第1号「扉」 [11]

新しい魔法の町(童話) [連載の1]

川崎 大治 12 } 19

児童文章(特選) 20 } 21

草原の龍宮城(隨筆) 支部 沈黙 22 } 27

古典物語 神と王様 幸田 幽 28 } 29

北の子供におくる言葉 百田 宗治 30 } 33

新イソップ フクどんとサルどん 長谷川ミツ 34 } 36

(投稿作品)

文章 飯田廣太郎先生選 [7篇] 37 } 43

選評 飯田廣太郎 44 } 45

社告(価格改定) [45]

自由詩 百田宗治先生選 [8篇] 46 } 47

選評 百田 宗治 48 } 49

選外佳作 文章・詩「氏名」 49

汽車通る(童話) [連載の1] 塚本 長蔵 50 } 54  
 新しいところみ〇与論調査 北の子供編集部 55  
 一月の暦より おとそのいわれ 55  
 編集部だより 56

奥付 56

先生方へのお願ひ〇児童作品募集 表紙 3

名画鑑賞 つどい [図版1] 表紙 4

第2巻第2号 [通巻7号]

一九四七(昭和22年) 四月一日

「福寿草」 [山田 義夫] 表紙 1

児童詩「特選」 表紙 2

先生方へのお願ひ〇児童作品募集 1

「目次」「北の子供」三・四月合併号

第2巻第2号 2 } 3

春近く(今月の言葉) 渡邊 捨男 4

「児童画」特選 北の子供 第2巻第2号「扉」 5

新しい魔法の町(2) [連載の2] 川崎 大治 6 } 14

「国のあゆみ」のお勉強 飯田廣太郎 15 } 17

あにと弟(古典物語) 幸田 幽 18 } 21

幼い日のワット(科学者伝記) 木村不二男 22 } 27

執筆者紹介

天然凍魚「こまい」の話 今井 晴一 28 ~ 29

雪夜の汽車(詩) 大塚みつる 30 ~ 31

野生鳥類の保護について「挿図1」井上 元則 32 ~ 36

童謡詩 雪の降る日 坪松 一郎 37

児童文章(特選) 38 ~ 39

文章 飯田廣太郎先生選「8篇」○選外佳作「氏名」40 ~ 50

選評 飯田廣太郎 51 ~ 52

二月の暦より「節分の夜に豆を撒くのは?」 52

自由詩 百田宗治先生選「8篇」 53 ~ 54

選評 百田 宗治 55

ローマの綴り方 56 ~ 57

汽車通る(2)「連載の2・終」塚本 長蔵 58 ~ 64

編集部日より 表紙 3

奥付 表紙 3

名画鑑賞 刺の冠「図版1」 表紙 4

第2巻第3号「通巻8号」

一九四七(昭和22年)五月十日

「登校」 岸田 賢二 表紙 1

今月の言葉 大橋 保 表紙 2

児童詩(特選) 1

「目次」北の子供「五・六月合併号」

(第二巻第三号)

「児童画」特選 北の子供 第2巻第3号「扉」 2 ~ 3

風邪をひいた風の神(童話) 林 良應 4 ~ 7

キリストの誕生(聖書物語)「連載の1」 8 ~ 11

オノムラリンソウ

五月の暦より 鯉のぼり 渡邊 一雄 12 ~ 13

新しい憲法の話 渡邊 一雄 12 ~ 13

アイザックの風車(科学者伝記)「連載の1」 木村不二男 14 ~ 18

イソップ漫画イノチトリノヒモ 渡邊 正敏 19

北海道の農産物 薄荷のお話「写真2」 橋本 照俊 20 ~ 21

小川の春「詩」 大塚みつる 22 ~ 23

驢馬どろぼう(古典物語) 幸田 幽 24 ~ 25

児童文章(特選) ○評 26 ~ 28

文章佳作「氏名」 28

名画鑑賞 母といとし子「図版1」 29

文章 飯田廣太郎先生選「5篇」 30 ~ 38

選評 飯田廣太郎 38 ~ 39

自由詩 百田宗治先生選「8篇」 40 ~ 43

選評 百田 宗治 42 ~ 43

自由詩 百田宗治先生選「8篇」 42 ~ 43

選評 百田 宗治 42 ~ 43

ローマの綴り方 名花鈴蘭

44 ~ 45

三郎の喜び「童話」

松本 達雄

46 ~ 48

奥付

48

先生方へのお願い○児童作品募集

表紙 3

広告

表紙 4

名画鑑賞 ほほえみ「図版1」

23

児童詩 「5篇」

24 ~ 26

児童詩 (特選)

25

作品募集

25

選評

百田 宗治

26

アイザックの風車 (2) 「連載の2・終」

木村不二男 27 ~ 31・表紙 3

### 第2巻第4号「通巻9号」

一九四七(昭和22年)六月二十五日

奥付

31・表紙 3

「舟」

「梁川 剛一」 表紙 1

広告

表紙 4

アカンヤ咲く街 (詩)

大塚みつる 「2」

七月号目次 (北の子供第2巻第4号)

「3」

### 第2巻第5号「通巻10号」

一九四七(昭和22年)八月一日

「山上の征服」

「梁川 剛一」 表紙 1

喇叭朝顔 (童話)

荒谷 七生 4 ~ 5

児童作品募集

表紙 2

社告「紙不足のため今号より減頁」

5

(童謡) 蛙

小田 邦雄 表紙 2

聖書物語 (2) 少年イエス「連載の2」

6 ~ 9

八月号目次 (北の子供第2巻第5号)

表紙 1

気象の話 温度とお米のとれ高「図版1」

10 ~ 11

ライラックの木の下で (第1回) (創作)

百田 宗治 2 ~ 5

齋藤 鍊一

12 ~ 15

林 良應 6 ~ 13

ロビンソン漂流記 (絵物語) 「連載の1」

16 ~ 17

孟蘭盆会「八月の暦」

13

ダニエル・デフォー原作 幸田 幽

18 ~ 22

ロビンソン漂流記第2回「連載の2」

幸田 幽 14 ~ 17

児童文章 (特選) ○評

22

児童文章「4篇」○佳作「氏名」

飯田廣太郎

選評

飯田廣太郎

22

幸田 幽 14 ~ 17

貿易のお話	谷川喜久治	18
サロマ湖の夏(詩)	大塚みつる	19
児童文章(特選)○評		20
児童詩 特選		21
児童詩[5篇]○(佳作) [氏名]		22
選評	飯田廣太郎	26
児童詩[7篇]		27
選評	百田 宗治	28
パストールと牧童ジャン(科学者伝記)		29
奥付	木村不二男	33
広告		33
		表紙 3
		表紙 4

第2巻第6号 [通巻11号]

一九四七(昭和22年) 九月一日

[釣の名人]	[梁川 剛一]	表紙 1
向日葵(詩)	荒谷 七生	表紙 2
創作募集		表紙 2
北の子供 九月号(第2巻第6号)		[1]
兩ニモマケズ 宮澤賢治のはなし[連載の1]	小田 邦雄	2
		6

第2巻第7号 [通巻12号]

一九四七(昭和22年) 十月一日

聖書物語(3) キリストの洗礼[連載の3]	オノムラリンゾウ	7
九月の暦より 秋の七章		10
天売島への旅[図版1]	国松 登	11
ロビンソン漂流記第3回[連載の3・終]		13
ダニエル・デフォール原作	幸田 幽	14
児童文章(特選)○評		18
児童詩(特選)		19
児童文章[4篇]○佳作[氏名]		20
選評にかえて	飯田廣太郎	24
児童詩[8篇]		25
今月の詩[選評]	百田 宗治	26
トロコテンとカンテン[挿図3]	中村 義輝	27
童心歌 石狩風景	坪松 賢樹	28
ライラックの木の下の下(第2回)[連載の2]	百田 宗治	30
奥付		33
広告		33
		表紙 3
		表紙 4

[葡萄とり]

[梁川 剛一]

表紙 1

児童作品募集

秋の駅(詩)

大塚みつる

表紙 2

第2巻第8号 [通巻13号]

一九四七(昭和22年)十一月一日

「目次」北の子供 十月号(第2巻第7号)

表紙 1

「僕たちも一人前」

〔梁川 剛一〕 表紙 1

ユーコンの山猫(1)「連載の1」林 良應

2 7

児童作品募集

表紙 2

ライラックの木の下で(終回)「連載の3・終」

百田 宗治 8 11

少年詩 ひそやかな秋

小田 邦雄 表紙 2

アイヌと熊の仔(詩)

川口 清一 8 11

冬が来る(詩)

丸山 薫 2 3

ロビンソン漂流記(終回)「連載の4・終」

11

茂助爺さんと林檎園「童話」

八森虎太郎 4 8

ダニエル・デフォー原作

幸田 幽 12 15

執筆者紹介

8

渡り鳥

大飼 哲夫 16 19

ガス坊チャールズ(科学者伝記) 木村不二男 9 13

児童文章(特選)○評

18 19

北海道の「子供」の歌 歌詞募集

13

児童文章「4篇」○佳作「氏名」

20 25

聖書物語(4) キリストの伝道「連載の4」

オノムラリンゾウ 14 17

選評

飯田廣太郎 25

児童文章(特選)○評

20 24

児童詩(特選)

26 27

児童文章「5篇」

24

児童詩「8篇」○佳作「氏名」

百田 宗治 27

児童詩(特選)

飯田廣太郎 25

選評

28 33

児童詩「8篇」

26

雨ニモマケズ(2) 宮澤賢治の話「連載の2・終」

小田 邦雄 33 3

選評

25 26

編集部より

33 表紙 3

鉄橋の歌「童話・連載の1」

武田 亜公 33 表紙 3

奥付

33 表紙 3

編集部より

33 表紙 3

広告

表紙 4

奥付

33 表紙 3

〔広告〕

表紙 4

児童文章 (特選) ○評

児童文章〔3篇〕

29

第2巻第9号〔通巻14号〕

一九四七(昭和22年)十二月一日

選評

飯田廣太郎

32

〔クリスマス〕

〔梁川 剛一〕

表紙 1

児童作品募集

33・表紙 3

〔目次〕北の子供 十二月号(第2巻第9号)

表紙 2

編集部より

33・表紙 3

星の夜〔讚美歌四五五〕シユリア・レオナルド

1

答(15頁の考え物)

33・表紙 3

ゆき(詩)

草野 心平

2

輿付

33・表紙 3

鉄橋の歌(2)〔連載の2・終〕

武田 亜公

4

広告

表紙 4

執筆者紹介

ユーコンの山猫(2)〔連載の2〕林 良應

8

第3巻第1号〔通巻15号〕

一九四八(昭和23年)一月一日

サンタクローズ〔解説〕○読者よりのお便り

14

〔はねつき〕

〔梁川 剛一〕

表紙 1

長編少年冒険小説 大洞穴王〔連載の1〕

15

年頭の言葉

〔目次〕北の子供 新年号(第3巻第1号)

表紙 2

連載漫画笑伝 第1回クリちゃん一才の巻

16

ベニマシコ(詩)

尾崎 喜八

2

アメリカの小学校児童作品〔文章3篇〕

24

胡桃なる道(詩)

大塚みつる

4

児童詩(特選)

26

童謡詩 雪の精のお話

坪松 一郎

5

児童詩〔7篇〕

27

ユーコンの山猫(完)〔連載の3・終〕

林 良應

6

選評 百田 宗治

27

クロス・マジック(知恵の木)〔娯楽〕

山田 一雄

13

一筆書き「娯楽」

冒険小説 大洞穴王(2)「連載の2」

寺島 征史

18  
23

スキーのお話○スキー用語「解説」

「連載の1」 錦戸善一郎

24  
25

連載漫画笑伝 第2回クリちゃん二才の巻

高木富三夫

26  
27

アメリカ小学校児童作品「文章2篇」

児童詩(特選)

児童詩「9篇」○選外佳作「氏名」

選評

百田 宗治

30  
31

児童文章(特選) ○評

児童文章「4篇」

選評

飯田廣太郎

33  
36

児童作品募集

解答「娯楽12、17頁」

編集部より

奥付

広告

北の子供「時間表」

「梁川 剛一」

表紙  
3  
3  
4  
附録

第3巻第2号 「通巻16号」

一九四八(昭和23年)二月一日

「得意とするわざ」

「梁川 剛一」

表紙  
1

「目次」北の子供 二月号(第3巻第2号)

月夜の部落「詩」 大塚みつる

天井裏のお爺さん「詩」 室生 犀星

雁 竹内てるよ

アメリカの新地「解説」

執筆者紹介

父の日記帳

鼠と人生「科学」

冒険小説 大洞穴王(3)「連載の3」

一升のお米は幾つぶか

スキーのお話「図版3」

「連載の2・終」 錦戸善一郎

連載マンガ笑伝 第3回クリちゃん三才の巻

アメリカ小学校児童作品「文章3篇」

児童詩(特選) ○児童詩「10篇」

児童文章(特選) ○児童文章「4篇」

選評

百田 宗治

28  
27

26  
27

24  
25

22  
23

21  
12

14  
19

19

4  
7

2  
3

8  
12

7

7

13

19

19

19

19

12

23

25

27

27

27

27

27

27

27

27

選評

児童作品募集

あとがき

原稿募集

奥付

広告

飯田廣太郎

表紙 3

表紙 3

表紙 3

表紙 3

表紙 4

連載マンガ笑伝 第4回クリちゃん四才の巻

高木富三夫

美浦 三郎

世紀の話題「昭和新山」に登る

児童詩(特選)

児童詩[7篇]○佳作[氏名]

児童文章(特選)○評

児童文章[4篇]

選評

北海道児童図画移動展覧会作品募集

あとがき

奥付

広告

北海道子供歌楽譜(差し込み)

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

32

32

32

第3巻第3号 [通巻17号]

一九四八(昭和23年)三月一日

「お止しなさいよ」

童謡詩 春の海へ

「目次」北の子供 三月号 第3巻第3号

音楽(詩)

北海道子供歌「歌詞・佳作」

選後に

六つの指の海おとこ「連載の1」

愛読者通信

アメリカ小学校児童作品「文章1篇」

月夜の教室「童話」

大洞穴王「連載の4・終」

定価変更のお知らせ○原稿募集

32

3

3

3

3

4

1

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

第3巻第4号 [通巻18号]

一九四八(昭和23年)四月一日

「新入学」

童謡 春の川

「目次」北の子供

早春(詩)

(童詩)午後八時

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

32

32

32

32

32

32

32

32

32

32

六つの指の海おとこ(2)

〔連載の2〕 北島 八穂

童話 石ころの道〔連載の1〕 武田 亜公

学校給食に対する子供側の希望と感想

明るい舗道〔楽譜付〕

詩・山田貞一 曲・間島 篤

児童向け紙芝居 光の城物語〔連載の1〕

脚本・川崎大治 絵画・小原二郎

甘酒 森 莊己池

愛読者通信

連載マンガ 第5回クリちゃん愛犬パイの巻

高木富三夫

児童詩(特選) ○児童詩〔6篇〕

選評 百田 宗治

児童文章(特選) ○評

児童文章〔5篇〕

原稿募集 飯田廣太郎

選評

北海道児童図画移動展覧会作品募集

あとがき

奥付

広告

第3巻第5号〔通巻19号〕

一九四八(昭和23年)五月一日

〔鯉のぼり〕 〔梁川 剛一〕 表紙1

遠い山(詩) 大塚みつる 表紙2

〔目次〕北の子供五月号 第3巻第5号 表紙2

絵を読む子供(詩) 浅野 晃 1

六つの指の海おとこ(3)〔連載の3・終〕

北島 八穂 2

一茶の生涯 小田 邦雄 8

児童向け紙芝居 光の城物語〔連載の2・終〕

脚本・川崎大治 絵画・小原二郎 12

石ころの道〔連載の2・終〕 武田 亜公 14

アメリカの子供達 新井田 洋 19

連載マンガ 第6回クリちゃんカアコの巻 高木富三夫 22

アメリカン・スクール児童作品〔劇1、文章1〕 24

児童詩(特選) 26

児童詩〔8篇〕 27

選評 百田 宗治 27

児童文章(特選) ○評 28

児童文章〔5篇〕 29

表紙 3

表紙 3

表紙 3

表紙 4

選評

飯田廣太郎

32

北海道児童図画移動展覽会作品募集

表紙 3

海外ニュース○解説・サマータイム

表紙 3

あとがき

表紙 3

奥付

表紙 3

広告

表紙 4

選評

百田 宗治

27

児童文章(特選)○評

28

児童文章「3篇」

29

児童詩(佳作)「1篇」

32

選評

飯田廣太郎

31

「広告」世界名作紙芝居全集(全10卷)予約募集

表紙 3

第1回配本(巖窟王、ベニスの商人、アラジン)のラン

プ

### 第3巻第6号「通巻20号」

一九四八(昭和23年)六月一日

「炊事遠足」

「梁川 剛一」

表紙 1

童話詩 風の丘

坪松 一郎

表紙 2

「目次」北の子供 六月号 第3巻第6号

表紙 2

児童詩(特選)

竹内てるよ

1

少女小説 みやこわすれ

園 影之助

15・19

緑の王子「童話」

「連載の1」

16

新しい北海道の歴史 北のあゆみ「図版3」

中津川俊六

19

野球のはなし「図版4」

腰崎 敏雄

20

連載マンガ 第7回クリちゃん謎の手帳の巻

高木富三夫

24

児童詩「7篇」

26

「A4版裏・児童画5篇」

27

### 第3巻第7号「通巻21号」

一九四八(昭和23年)七月一日

「ボート漕ぎ」

「梁川 剛一」

表紙 1

児童詩(入選第一位)

表紙 2

北海道児童図画移動展覽会入賞作品

折り込み

「A4版表・児童画3篇」○図画を選んで・能勢 眞美

「A4版裏・児童画5篇」○入所者氏名

児童詩(特選)

「目次」北の子供 七月号 第3巻第7号

夏だ「詩」

丸山 薫

[5]

縦の木のはなし

百田 宗治

6 } 7

郵便屋さんの話

八森虎太郎

8 } 16

明るく生きよう(上)「連載の1」古谷 綱武

新しい北海道の歴史 北のあゆみ(2)

「連載の2」 中津川俊六

詩人ワルト・ホイットマン

高橋 英衛

22 } 25

児童詩「前号佳作入選作品」[1篇]

アメリカン・スクール児童作品「劇」

高木富三夫

26 } 29

連載マンガ 第8回クリちゃん宝さがしの巻

高木富三夫

「児童詩 8篇」

百田 宗治

30 } 32

選評

児童文章(特選)○評

児童文章[6篇]

文章・自由詩募集

選評

飯田廣太郎

34 } 35

36 } 37

38 } 39

39 } 44

「広告」世界名作紙芝居全集予約募集

あとがき

奥付

表紙 3

表紙 3

選評

表紙 3

広告

第3巻第8号「通巻22号」

一九四八(昭和23年)八月一日

「海水浴」

「梁川 剛二」

表紙 1

童謡 魚釣り

坪松 一郎

表紙 2

「目次」北の子供 八月号 第3巻第8号

名作物語 神様のそばに咲く花 アンデルセン原作

「絵物語・色刷」和田徹三 絵・能勢 眞美

ドフ先生とドッテンボーク(1)「童話」

水泳ぎ(詩)

「連載の1」 林 良應

明るく生きよう(下)「連載の2」

草野 心平

世界文豪物語(1)(ロシア)マキシム・ゴーリキー

古谷 綱武

泳ぎの出来るまで「図版11」

寺島 征史

ローマ字教室 ギリシヤ神話・オリオン「連載の1」

竹原 榮

やさしい模型ヨットの作り方「図版10」

寺井 信一

児童詩(特選)

児童詩「5篇」

児童詩「5篇」

百田 宗治

選評

表紙 3

表紙 3

表紙 3

表紙 3

表紙 3

表紙 3

表紙 4

児童文章特選〇評

〔児童文章 2篇〕

〔児童詩 佳作2篇〕

選評

飯田廣太郎

〔広告〕世界名作紙芝居全集予約募集

あとがき

奥付

広告

第3巻第9号〔通巻23号〕

一九四八(昭和23年)九月一日

〔梁川 剛一〕

表紙 1

児童詩(特選)

世界名作童話グリム 金の鳥〔絵物語・色刷〕

和田徹三 絵・梁川剛一

〔1〕8

児童詩(特選)

〔目次〕北の子供 九月号 第3巻第9号

とうきびの歌(詩)

ももたそうじ

ドフ先生とドッテンボーク(2)

〔連載の2〕 林 良應

九月生の偉人 ドボルザーク 木村不二男

12 22

世界文豪物語(2) フランス

〔1〕8

でんきと光〔図版1〕

新しい北海道の話 北のあゆみ〔図版1〕

社会科 ユネスコの運動

〔広告〕紙芝居の貸出について

ローマ字教室 ギリシャ神話・オリオン〔連載の2〕

連載マンガ 第9回クリちゃん子供の国・設計の巻

選評

〔児童詩 7篇〕

児童文章特選〇評

〔児童文章 4篇〕

文章、自由詩募集

選評

〔広告〕世界名作紙芝居全集予約募集

あとがき

奥付

広告

12 22

23

ヴァクトル・ユーゴー

三浦 良一

中津川俊六

藤田 喜一

高木富三夫

百田 宗治

飯田廣太郎

表紙 3

表紙 3

表紙 3

表紙 3

表紙 4

45 48

44 45

43 43

42 43

40 41

39 38

36 38

32 35

30 31

24 29

第3巻第10号 [通巻24号]

一九四八(昭和23年)十月一日

[梁川 剛一]

北の子供(目次) 十月号

世界名作童話 トルストイ イワンの馬鹿

〔絵物語・色刷〕 和田徹三 絵・久我恭介

児童詩(特選)

世界文豪物語(3)

ヘルマン・ヘッセ(ドイツ) 小さな聖者

無言〔ひと口話〕

新しい北海道の話 北のあゆみ(第4回)

確かに理屈〔ひと口話〕

二つのお知らせ

ローマ字教室 ギリシャ神話・オリオン(3)

〔連載の3〕

〔社告〕定価値上がり予告

詩 北のこともは知っている

きたばたけやは

新井田 洋

シミーの社会科勉強

成るほど〔ひと口話〕

十月生れの偉人 ウエスチングハウス

木村不二男

連載マンガ 第10回クリちゃん動物園の巻

児童詩〔7篇〕○選評

いろりばたのお話

コント たまご

児童文章(特選) 選評

〔児童文章 3篇〕

選評

童話 不思議な小母さま

皆さんへ

奥付

工作 造花ざしの作り方

広告

高木富三夫

百田 宗治

坪松 一郎

ミカクセツ

飯田廣太郎

竹内てるよ

伊藤 恵

表紙 3

表紙 4

表紙 1

表紙 2

表紙 1

表紙 2

表紙 1

表紙 2

表紙 1

表紙 2

表紙 1

表紙 2

表紙 1

表紙 2

表紙 1

第3巻第11号 [通巻25号]

一九四八(昭和23年)十一月一日

[梁川 剛一]

児童詩 特選

世界名作童話アミーチス原作 愛の学校 十一月の巻

〔絵物語・色刷〕 和田徹三 絵・梁川剛一

北の子供(目次)十一月号

9

新しい北海道の話 北のあゆみ第5回

林 良應33〔38〕

48

〔連載の5〕中津川俊六

10

皆さんへ

〔連載の3〕

48

先生へお願い

14

十一月生れの偉人 マリー・キュリー

15

工作 とらの作り方

伊藤 恵

表紙3

病気のもと「ひと口話」

木村不二男

16

広告

表紙4

コント 行列解散

美加久 節

17

ローマ字教室 ギリシャ神話・オリオン(4)

美加久 節

17

詩 冬が来る

北園 克衛

20

〔連載の4・終〕

18

ふきの下の神様 炬ばたの夜話

原田太郎〔朗〕

22

懸賞募集「開道八〇周年記念・児童詩・文章」

百田 宗治

26

自由詩〔7篇〕

百田 宗治

27

選評

高木富三夫

28

連載マンガ 第11回クリちゃんコドモ新聞の巻

飯田廣太郎

30

児童文章 特選〇評

飯田廣太郎

31

選評

飯田廣太郎

34

アメリカン・スクール児童作品〔劇1篇〕

飯田廣太郎

35

アメリカン・スクール児童作品〔劇1篇〕

飯田廣太郎

37

ドフ先生とドッテンボーグ(3)

表紙1

林 良應33〔38〕

48

皆さんへ

〔連載の3〕

48

奥付

伊藤 恵

表紙3

工作 とらの作り方

伊藤 恵

表紙3

広告

表紙4

第3巻第12号 〔通巻26号〕

一九四八(昭和23年)十二月一日

〔梁川 剛一〕

表紙1

サンタクロース「ローマ字で解説」

表紙2

世界名作童話 家なき児 エクトル・マロー原作

1

〔絵物語・色刷〕 和田徹三 絵・梁川剛一

8

〔児童詩〕特選〇北の子供 目次 十二月号

9

萩はこぼれ咲く(長編物語) 第1回

10

十二月生れの偉人 ルイ・パストール

16

詩 たのしい前夜

木村不二男

18

新しい北海道の話 北のあゆみ 終回

丸山 薫

19

新しい北海道の話 北のあゆみ

中津川俊六

20

北の子供新聞第1号

〔連載の6・終〕

23

北の子供新聞第1号

〔連載の6・終〕

25

逃げた仔熊 炉ばたの夜話2 原田 太朗 26 } 30  
 お知らせ

コント 鉛筆の無駄 美加久 節 31  
 児童詩〔7篇〕○選評 百田 宗治 32 } 33

連載マンガ 第12回クリちゃん発明工夫の巻 高木富三夫 34 } 35

児童文章 特選○評

〔児童文章 3篇〕

選評 飯田廣太郎 36 } 37  
 37 } 40

ドフ先生とドッテンボーグ(4)

〔連載の4〕 林 良應 41 } 47

うれしいお知らせ 北の子供会

(聴く雑誌の会)のこと 48

おもしろい遊び〔遊びの紹介〕

皆さんへ 表紙3

奥付 表紙3

広告 表紙4

第4巻第1号 〔通巻27号〕

一九四九(昭和24年)一月一日

〔梁川 剛二〕 表紙1

北の子供の派遣人形たち

〔人形劇団こまどり座の人形・写真〕

表紙2

世界名作童話〔絵物語・色刷〕

ハックスベリー物語 マークトウエーン原作

和田徹三 絵・梁川剛一

年頭のことば 須田多四郎 1 } 8

北の子供(目次)一月号

萩はこぼれ咲く 第2回

〔連載の2〕 工 清定 10 } 16

一月生れの偉人 ジェームス・ワット

童詩 雪物語 木村不二男 18 } 19

特集 世界お伽めぐり 竹内てるよ

○右になった小鬼(オランダ) ○馬のあらそい

(朝鮮) ○うそぎらいな王様(フランス) ○山

羊になった坊さん(ロシア) ○正義が死んだ

(ドイツ) ○九天の玄女(中国)

文・小野三男治 和田義雄 山田貞一 三浦一 20 } 31

予告○本月号附録・ローマ字カルタに就いて 清水 裕幸 32 } 33

〔漫画〕ゴンちゃんのお年玉

北の子供新聞第2号

児童文章 〔3篇〕○佳作〔氏名〕 34 } 35

36 } 38

選評 佐藤麟太郎

詩〔7篇〕

39

二月生れの偉人 ニコラス・コペルニクス

木村不二男

選評

百田 宗治

40

魔法使いと親子狐〔童話〕

園 影之助

コント 牛乳を呑む

美加久 節

41

詩 ふぶき

藤田 貞雄

半夜の浮浪（1）〔連載の1〕

北川 千代

42

コント 吹雪の道

美加久 節

皆さんへ

48

北の子供新聞第3号

26

原稿募集

48

開道八十年記念応募作品

詩〔10篇〕百田宗治先生選

27

奥付

48

〔広告〕世界名作紙芝居全集予約募集○広告

表紙 3

選評

百田 宗治

28

広告

表紙 4

星を売る店（戯曲）

早川 三代治

31

### 第4巻第2号〔通巻28号〕

一九四九（昭和24年）二月一日

ぼくはりこう〔マンガ〕

渡辺マサトシ

38

〔児童作品特集号〕

〔梁川 剛一〕

表紙 1

開道八十年記念応募作品 児童文章

北川 千代

40

〔広告〕嬉しいお知らせ 児童親善文募集

表紙 2

佐藤麟太郎先生選 特選〔3篇〕○評

52

中国の童話 あかがね橋をわたった豚ころし

1

〔入選3篇〕〔入選者氏名〕

佐藤麟太郎

55

〔絵物語・色刷〕 和田義雄 絵・清水裕幸

6

総評

55

名詩鑑賞 もえろペチカ〔色刷〕 北原 白秋

7

皆さんへ○原稿募集

56

二月の桜（詩）〔色刷〕 支部 沈黙

8

奥付

56

北の子供（目次）二月号

9

広告 世界名作紙芝居全集予約募集○広告

表紙 3

萩はこぼれ咲く 第3回

10

広告

表紙 4

〔連載の3〕 工 清定

10

第4巻第3号「通巻29号」

一九四九（昭和24年）三月一日

〔梁川 剛一〕

児童詩 特選

イギリス童話 ロビンと小人〔絵物語・色刷〕

小野三男治 画・清水裕幸

雪の中の春〔詩・色刷〕

練が春を〔詩・色刷〕

北の子供（目次）三月号

萩はこぼれ咲く 第4回

〔連載の4〕 工 清定

三月生れの偉人 ミケランジェロ

木村不二男

サッポロ・アメリカン・スクール児童親善文

〔3篇〕

感激物語 友情の手術〔野口英世の話〕

小林 覚一

予告〔増頁〕

コント ねずみ捕り

北の子供新聞第4号

詩〔7篇〕

選評

百田 宗治

30  
31

投稿作品 北風婆さん

童謡 北国三月

カンちゃんとランドセル〔マンガ〕清水 裕幸

児童文章〔5篇〕

児童作品募集

ドフ先生とドッテンボーク 5

こうもりかっちゃんアフリカへ行く〔漫画〕

皆さんへ 小野寺信雄

皆さんへ

皆さんへ

奥付

広告

広告

広告

第4巻第4号「通巻30号」

一九四九（昭和24年）四月一日

〔梁川 剛一〕

〔入学〕

春の駅（詩） 大塚みつる

将来の北海道○農村○都市○漁村〔色刷〕

北の子供（目次）四月号〔色刷〕

オランダ童話 ジョンの冒険〔色刷〕

三浦 一 画・渡邊正敏

6  
10

文屋みどり 32  
33

武田 亜公 33

清水 裕幸 34

35  
38

38

39  
47

林 良應

48

表紙 3

表紙 3

表紙 3

表紙 4

表紙 3

表紙 3

表紙 1

表紙 2

表紙 1

表紙 2

表紙 1

表紙 1

表紙 1

表紙 1

キリガミマンガ〔色刷り〕 渡邊 正敏〔頁表示なし〕

カッチャンのモデル〔漫画・色刷〕

清水 祐幸〔頁表示なし〕

萩はこぼれ咲く 第5回

〔連載の5〕工 清定 11〕17

〔広告〕本誌創刊三周年記念愛読者大会予告

竹藪のある家〔短編童話〕 竹内てるよ 18〕24

四月生れの偉人 アンデルセン 木村不二男 25

北の子供新聞第5号

風車小屋物語〔海外童話〕 後藤 庸也 28〕33

イースターうさぎさん〔アメリカのお話〕

新井田 洋 34〕36

美加久 節 37

四辻 一朗 38〕39

サッポロ・アメリカン・スクール児童親善文

〔4篇〕 40〕41

児童文章 飯田廣太郎先生選〔特選〕○評 42〕43

〔児童文章3篇〕○選評 43〕45

詩〔9篇〕百田宗治選○選評 46〕47

なかよしページ〔質問2、笑話2、俳句3、短歌1〕 48

日本の科学者たち〔1〕伝記小説 山脇東洋

寺島 柁史 49〕54

こどものくに〔1〕〔長編物語〕

〔連載の1〕北畠 八穂

私たちのこども郵便局〔要項〕○皆さんへ 55〕62

奥付 表紙3

広告 表紙4

第4巻第5号〔通巻31号〕

一九四九〔昭和24年〕五月一日

〔さくら咲く頃〕 〔梁川 剛一〕 表紙1

童謡 畑の弁当〔写真・色刷〕 大塚みつる 表紙2

絵物語 フランス童話 ガラスの小杓〔色刷〕

和田義雄 絵・梁川剛一 1〕5

ジークフリート 誌上紙芝居〔色刷〕

絵・梁川 剛一 6〕8

五月号目次 北の子供 KITTA NO KODOMO 9

平原の子供等〔童話〕 坪松 一郎 10〕17

五月生れの偉人 ダンテ 木村不二男 18

うれしいお知らせ 北の子供会聴く雑誌の会のこと 19

ライデンの笛吹〔海外童話〕

子供短歌 石狩平原 坪松 一郎 20〕24

コント 夜の勉強 美加久 節 25

北の子供新聞第6号 26〕27

児童文章 飯田廣太郎先生選(特選) ○評

28 ~ 30

〔児童文章5篇〕

飯田廣太郎

31 ~ 35

選評 サッポロ・アメリカン・スクール児童親善文〔3篇〕

35

詩 百田宗治選〔9篇〕

百田 宗治

36 ~ 37

選評 こどものくに(2)〔連載の2〕

北畠 八穂

38 ~ 40

トンビ小僧(漫画)

小野寺信雄

41 ~ 47

鈴木三重吉先生

木村不二男

48 ~ 49

山の学校(詩)

今井 鴻象

50 ~ 53

ドフ先生とドッテンボーク(終回)〔連載の6・終〕

林 良應

54 ~ 55

愛読者大会のお詫び○児童親善文のお願い

表紙3

あとがき

表紙3

奥付

表紙3

広告

表紙4

第4巻第6号〔通巻32号〕

一九四九(昭和24年)六月一日

〔梁川 剛一〕

〔時の記念日〕

表紙1

表紙2

美しいわれらの北海道〔写真2〕

ドイツ童話〔絵物語・色刷〕

足なが・目だま大耳 文と画・今田 敬一

鑑賞短歌(一)張碓の浜〔色刷〕 並木 凡平

愛誦詩 日ぐれの牧場〔色刷〕 奥 保

目次 KITA NO KODOMO 1949 JUNE

本誌創刊三周年記念愛読者大会プログラム

愛読者大会上演脚本〔楽譜付〕

児童劇 僕等の歌(一幕) 五条 彰

六月生れの偉人 ルソー 木村不二男

こどものくに〔連載の3・終〕 北畠 八穂

宝は誰にでもある(読切童話) 善理英二郎

詩 青草 藤田 貞雄

サッポロ・アメリカン・スクール児童親善文

峠の子等(童話)〔連載の1〕 和田 義雄

コント 白い帆船 美加久 節

詩 百田宗治選〔6篇〕

選評 児童文章 飯田廣太郎先生選〔5篇〕○評

選評 おじいさんと黒砂糖(読切童話) 福原 寅雄

北の子供新聞第7号

表紙4

表紙3

表紙3

表紙4

表紙1

表紙2

表紙2

1 ~ 5

6 ~ 7

8

9

10 ~ 11

12 ~ 18

19

20 ~ 26

27 ~ 31

31

32 ~ 33

34 ~ 40

41

42 ~ 43

43

44 ~ 48

48

49 ~ 51

51

52 ~ 53

53

月夜の海〔説話童話〕

坪松 一郎

54 } 55

なよ竹のかぐや姫〔連載の1〕

工 清定

56 } 64

鑑賞短歌について

和田 義雄

64

本誌創刊滿三周年記念児童読物懸賞募集

あとがき

表紙 3

表紙 3

奥付

表紙 3

表紙 3

広告

表紙 4

表紙 4

### 第4巻第7号〔通巻33号〕

一九四九(昭和24年)七月一日

〔風薫る水辺〕

〔梁川 剛一〕

表紙 1

美しいわれらの北海道〔写真1〕

表紙 2

表紙 2

イギリスの童話〔絵物語・色刷〕

宝の谷グラック 和田徹三 画・岸田賢二

1 } 5

とんびの笛〔詩〕〔色刷〕

時雨 音羽

6 } 7

童謡詩 猫なげ〔色刷〕

坪松 一郎

8

目次 KITA NO KODOMO 1949 JULY

破かれた図画〔童話〕

木村不二男

七月生れの偉人 幸田露伴

木村不二男

10 } 16

峠の子等(童話)〔連載の2・終〕和田 義雄

野原 紫苑

18 } 24

幻の笛(短編童話)

野原 紫苑

25 } 28

仲良しクラブ〔児童詩1、俳句9〕

29

北の子供新聞第8号

30 } 31

孫悟空(痛快小説)〔連載の1〕

飯田三樹男

32 } 40

心の星(短編童話)

松浦 義雄

41 } 45

サッポロ・アメリカン・スクール児童親善文

〔日本児童より〕

46 } 47

児童文章 飯田廣太郎先生選〔4篇〕

飯田廣太郎

48 } 51

選評

選評

51

詩 百田宗治選〔7篇〕

百田 宗治

52 } 53

赤つめ草(短編童話)

武川 隆子

54 } 55

なよ竹のかぐや姫〔連載の2〕

工 清定

56 } 63

北の子供だより

奥付

64

奥付

ピンちゃんのホームラン王(漫画)清水 裕幸

表紙 3

広告

表紙 4

表紙 4

### 第4巻第8号〔通巻34号〕

一九四九(昭和24年)九月一日

〔海風を浴びて〕

〔梁川 剛一〕

表紙 1

美しいわれらの北海道〔写真2〕

表紙 2

渚の神様〔絵物語・色刷〕

文・和田徹三 絵・村岡 登

〔1〕 } 5

鑑賞短歌(2) チューリップの花【色刷】

伊東音次郎 6  
荒谷 七生 8

沖のいなずま(詩)

工 清定 10  
坪松 賢樹 17

なよ竹のかぐや姫【連載の3】

片足の上靴(長編読切童話) 丘 のぼる 18  
北の子供新聞第9号 24

児童文章 飯田廣太郎先生選【3篇】

ユーマ・話の泉 飯田廣太郎 26  
ユーマ・話の泉 飯田廣太郎 28

選評

孫悟空(2)【連載の2】 飯田三樹男 32  
仲良しクラブ【詩5、俳句4、短歌2】 41

待ちあぐんだ本誌創刊満三周年愛読者大会

盛況のうちに終わる【写真2】 42  
北海道唯一の児童雑誌「北の子供」創刊 満三周年記念に寄す【7篇】 44

質問箱【図版1】

蛇にかまれたお父さん(読切童話) 武田亜公 50  
51

誰にでもわかりやすい 原子力のお話【図版6】

梅田 魁 52  
梅田 魁 57

怖ろしい神社の森(読切童話)

東海林 勉 58  
藤田 貞雄 60

童話 お山のけむり

北の子供だより○ユーマ・「話の泉」の答 63  
○世界で一番新しい山昭和新山を見学 64

奥付

遅夏【詩】 留守番【詩】 大塚みつる 表紙3  
広告 表紙4

第4巻第9号【通巻35号】

一九四九(昭和24年)十月一日

優勝を期して

「美しいわれらの北海道・写真1」 表紙1  
「美しいわれらの北海道・写真1」 表紙2

巖窟王(1)【色刷】【連載の1】

文・椿 達彦 絵・梁川剛一 1  
1

なよ竹のかぐや姫【連載の4】

工 清定 10  
児童文章 飯田廣太郎先生選【3篇】○選評 11

児童詩 百田宗治選【7篇】○選評

作品募集 22  
23

23

23

北の子供新聞第10号

奇怪な南瓜畑(読切童話)

深沢 光風

24 } 25

霧の子供二人集(児童文章2篇)

26 } 29

秋の夜話 化け狐(読切童話)

二瓶 三郎

30 } 31

はるけき旅の日(詩)

工 清定

32 } 37

エゾの大将(一)伝記小説

千葉 伸

38 } 39

ニベソツの小学校

高倉新一郎

40 } 45

偉人の面影「ファラデー」○「ラマルク」

木村不二男

46 } 49

孫悟空(第3回)「連載の3」

飯田三樹男

50 } 51

質問箱

飯田三樹男

52 } 62

あとがき

63 } 64

奥付

64

ホガラカブツチャ「マンガ・連載の1」

弓田 宇佐

64

広告

表紙 3

表紙 4

表紙 2

表紙 1

表紙 2

### 第4巻第9「10」号 「通巻36号」

一九四九(昭和24年)十一月一日

「収獲」

「梁川 剛一」

美しいわれらの北海道「写真1」

表紙 1

表紙 2

巖窟王(2)「色刷」 「連載の2」

文・椿 達彦 絵・梁川剛一

1 } 8

十一月号目次 KITA NO KODOMO 1949

NOVEMBER

9

孫悟空(第4回)「連載の4」

飯田三樹男

10 } 19

児童短歌 別れ秋

丘 のぼる

19

北の子供新聞第11号

拾った石(読切童話)

20 } 21

教のユーモア・話の泉

伊藤 明徳

22 } 26

白王廟(長編読切童話)

諸角 和備

27

浮浪児(詩)

なつやすみ作品詩三題「4篇」

28 } 38

なよ竹のかぐや姫(第五回)

「連載の5」 工 清定

39

作文二人集 夏休みの作品誌上紹介

エゾの大将「連載の2・終」

40 } 49

詩二題 父を持つ、秋の夜は

千葉 伸

50 } 51

質問箱

木村不二男

52 } 57

救いの実(読切童話)

諸角 和備

58 } 59

数のユーモア・話の泉の答

北の子供だより

60 } 63

奥付

63

64

64

63

64

64

連載マンガ2 朗ラカブッチャ〔連載の2〕

弓田 宇佐

表紙 3

広告

表紙 4

第4巻第9〔11〕号〔通巻37号〕

一九四九(昭和24年)十二月一日

〔雪ふりそめて〕

〔梁川 剛一〕

表紙 1

〔美しいわれらの北海道〕〔写真1〕

表紙 2

巖窟王(3)〔色刷〕

文・椿 達彦 絵・梁川剛一

1 ~ 8

〔目次〕KITA NO KODOMO 1949

DECEMBER

9

孫悟空(第5回)〔連載の5〕

飯田三樹男

10 ~ 20

みぞれ降る朝(詩)

岩間 順一

20

雪女のはなし 東北の昔話(短編童話)

小田 邦雄

21 ~ 23

北の子供新聞第12号

伊東 明德

24 ~ 25

少年小説 父母物語

伊東 明德

26 ~ 37

質問箱

つらら(児童科学教室)

38 ~ 39

詩 吹雪の夜

藤田 貞雄

40 ~ 42

詩 和田徹三先生選〔9篇〕

藤田 貞雄

43 ~ 45

選評

和田 徹三

43 ~ 45

勉強のよくてできるひけつ○日本再建金言集

楽聖と謳われるまで○リスト○ベートーヴェン

(伝記物語)

木村不二男

46

湖の朝霧(詩)

大塚みつる

47 ~ 49

児童文庫〔章〕

飯田廣太郎先生選(特選)○評

50 ~ 51

〔児童文章 4篇〕

飯田廣太郎

51 ~ 53

選評

飯田廣太郎

53

なよ竹のかぐや姫(第6回)

〔連載の6〕工 清定

54 ~ 64

北の子供だより

〔連載の6〕工 清定

64

奥付

〔連載の6〕工 清定

64

ホガラカブッチャ〔連載の3〕

弓田 宇佐

表紙 3

広告

〔連載の6〕工 清定

表紙 4

第5巻第1号〔通巻38号〕

一九五〇(昭和25年)一月一日

〔明けゆく元朝〕

〔梁川 剛一〕

表紙 1

新しい春の光(年頭の言葉)

須田多四郎

表紙 2

鉄仮面(1) (長編物語)〔色刷〕

文・椿達彦 絵・梁川剛一

1 ~ 8

〔目次〕KITA NO KODOMO 1949 JANUARY

9

馬上の少年荒武者(熱血痛快小説)

奥付

64

〔連載の1〕

伊東 明德

10

連載マンガ 朗らかブッチャ〔連載の4〕

新しい年を迎えて

田中 敏文

17

弓田 宇佐

表紙 3

冒険実話小説 三少年の満州脱出

広告

表紙 4

〔連載の1〕

杉野 正美

18

児童文章 飯田廣太郎先生選〔3篇〕

飯田廣太郎

26

選評

飯田廣太郎

31

詩 百田宗治先生選〔7篇〕

26

本誌創刊滿三周年記念募集 児童読物懸賞当選作品

本多 幸一

32

湖の虹〔連載の1〕

本多 幸一

32

北の子供新聞第13号

40

連載新講談 少年里見八大伝

鴨川 肇人

41

〔連載の1〕

鴨川 肇人

42

質問箱

鴨川 肇人

48

砂山の子たち(児童感激物語)

松浦 義雄

50

少年詩 北見の子

目黒 草水

52

月夜〔詩〕

大塚みつる

55

孫悟空(第六回)〔連載の6〕

飯田三樹男

56

〔広告〕北の子供二月号〔内容の予告〕

佐山 四郎

61

芸術家の苦心

佐山 四郎

62

北の子供だより

佐山 四郎

63

児童読物懸賞入選発表表

64